

## VI 「新しい市役所」の実現に向けた行財政集中改革ビジョン

Society 5.0時代の到来及び今般の新型コロナウイルス感染症の拡大を契機として、AIやロボットなどの高度な技術を活用し、「新しい生活様式」に対応した行政サービスの提供が求められるなど、行政に対する市民ニーズは多様化しています。このような状況の中、限られた経営資源（職員数、財源）で将来に渡り持続可能な市政運営を行っていくためには、これまで積み重ねてきた行財政改革の取組みを継承・発展しつつも、新たな視点を取り入れた改革が必要となります。

そこで、新たな行財政改革の方向性を示す「行財政集中改革ビジョン」では、社会のあり様や人々の価値観に劇的な変化（パラダイムシフト）が起こっている中、今後改革を進める上で推進すべき分野を4本の柱として設定しました。本市が目指すべき「ニューノーマルを実現する新しい市役所」へ変貌を遂げるため、それぞれの柱に掲げたゴールに向かって、着実に改革を実践していきます。

### ニューノーマル<sup>※1</sup>を実現する新しい市役所へ

#### 第1の柱

##### スマート自治体への転換による市民サービスの向上

- ☆ ICT技術の活用により、ニューノーマルを意識した非接触、非来庁型の行政サービスを提供します
- ☆ ICT技術の活用により、様々な分野において付加価値のある充実した行政サービスを提供します

#### 第2の柱

##### 民間活力等の活用や協働の推進

- ☆ 民間事業者のノウハウや資金力を活用し、効率的に施設を運営していきます
- ☆ 民間事業者や大学など、様々な主体との協働により、行政課題の解決を図ります

#### 第3の柱

##### 効率的・効果的な行政運営へ市役所風土を変革

- ☆ ICT技術の活用と職員の意識改革により、働き方改革を進めます
- ☆ 時代の変化に対応した事務事業や組織のスマート化を進めます

#### 第4の柱

##### 持続可能な財政運営の実現

- ☆ 引き続き、自主財源の確保と、より一層のコスト削減を図ります
- ☆ 公共施設の再編を進めるとともに、既存施設等の有効活用に努めます

※1 ニューノーマル：New（新しいこと）とNormal（正常、標準、常態）を合わせた造語。Withコロナ・Afterコロナの時代に求められる新しい生活様式。